

6月14日 『遠野物語』発刊から110年

『遠野物語』に親しむ1日

本市出身の佐々木喜善が語った伝承を柳田國男が書き記した『遠野物語』は6月14日、発刊110年を迎え、関連した催しが市内で行われました。12日は土淵小(佐々木哲也校長、児童77人)で『遠野物語の日集会』が開かれ、6年生16人は事前に学んだり調べたりした『遠野物語』の魅力を下級生に向けて発表。その後、児童らは同物語を題材にした

かるたで遊び、読まれた札にまつわる話を聞いて『遠野物語』の世界に親しまいました。14日は市立博物館を無料で開放。入館者は物語誕生当時の遠野の様子や喜善の日記を見て楽しみました。市立図書館では、キーワードを答えた先着10人に『遠野物語』に関する本などが贈られました。

- 1_物語の魅力伝える土淵小6生
- 2・3_バッジと塗り絵もプレゼント



5月26日・27日 青笹小・土淵小児童が田植え体験

泥にまみれて手植えに挑戦



1_地域住民に教わり丁寧に田植えをする土淵小児童 2・3_ぬかるむ泥にめげずに、笑顔で作業する青笹小児童

子どもたちに食の生産現場を知ってもらおうと、市内地域住民らが田植え体験を開きました。青笹町の上閉伊酒造(株)は26日、日本酒ができるまでの過程を理解してもらうため、同社裏の田んぼで田植え体験を開催。青笹小の5年生22人が、酒米になるひとめぼれを植えました。土淵町の遠野みらい創りカレッジは27日、農事組合法人遠野こがらせ農産と連携して開催。土淵小の3年生11人はカレッジの近くにある田んぼに、もち米の苗であるひめのもちの手植えに挑戦しました。秋には収穫体験も行う予定です。

5月21日 JICA青年海外協力隊員の活動を報告

岸田袈裟さんに憧れアフリカへ

青年海外協力隊として2年5カ月、アフリカ・ザンビア共和国で農業を指導した鈴木舞香さん(26歳、大工町)が市役所とびあ庁舎を訪れ、本田市市長に活動を報告しました。鈴木さんは、中学生の時に本市出身の故・岸田袈裟さんの講演を聞き、同隊員として活動することを決意。同国で、稲作やキノコ栽培の普及に力を注ぎました。



本田市市長に活動を報告する鈴木さん

Newsプラス 6つ葉のクローバーを発見!

幸せのおすそ分け

菊池藤夫さん(82歳、松崎町)は5月15日、松崎町の遠野バイパス沿いを散歩中に6つ葉のシロツメクサ(俗称・クローバー)を見つけました。菊池さんは「夢のようだった。こんなことがあるのかとびっくりした」と笑みを広げました。世界では、56枚の葉をつけたクローバーがギネス記録に認定されています。



6つ葉のクローバーを発見した菊池さん

6月21日 「ラジコン型草刈機」実演研修&環境整備

スマート農業の可能性探る

上宮守第1・第2農家組合青年部は、同草刈機の実演研修を開催しました。同青年部員約17人が参加。宮守町上宮守の国道396号法面で草刈機を試運転し、農作業省力化の可能性を探りました。草刈機は、農事組合法人宮守川上流生産組合が中山間直接支払制度による国の補助を受け導入。農地管理の負担軽減に役立っています。



ラジコン型草刈機で法面の草刈りを実演

6月20日 市グラウンド・ゴルフ協会20th記念春季大会

久々大会、プレーはつらつ!



1・2_グラウンドゴルフを楽しむ参加者たち 3_休憩中も会話が弾み、笑顔が広がりました

遠野市グラウンド・ゴルフ協会20周年記念春季グラウンドゴルフ大会は早瀬川緑地内で行われ、同会員107人が参加。新型コロナウイルス感染症の影響で昨秋ぶりとなる大会を楽しみました。8ホールを4ラウンド回って総打数の少なさを競う競技と、8ホールのうち2打以内でポストに入れたホール数を競う「サバイバル」の2種目を実施。参加者は青空の下でコースを回り、心地よい汗を流しました。【優勝者】男子=山陰龍男さん(70打)、女子=菊池法子さん(82打)

6月23日 「地域との協働による拓心プロジェクト」

探究の実践例と地域を学ぶ

遠野緑峰高校(菊池勇校長)で同プロジェクトが開かれ、同校生徒157人が遠野を舞台にした探究活動の実践例と地域の歴史を学びました。遠野高校3年の川前勇斗さんが研究成果を発表したほか、遠野市史編さん委員長の大橋進さんが遠野の歴史を紹介。生徒は、今後の活動のヒントがないか耳を傾けました。



川前さん(左)の発表に聞き入る緑峰高生

6月13日 令和2年度遠野市緑化祭「里山フェスタ2020」

子どもが描く未来を地域の手で

里山フェスタ2020は、宮守町の銀河の森総合運動公園で行われ、地域住民や関係者ら約80人が参加しました。新型コロナウイルス感染防止のため、参加者数を制限して開催。桜100本とナラやカエデ、ナナカマドなど200本の広葉樹を植樹しました。植樹は宮守小学校の児童が昨年、同所の利活用を提案したことがきっかけ。環境整備に向けて宮守地域づくり連絡協議会と遠野「西の玄関口みやもり」検討会、関係機関が連携して実現しました。参加者は、子どもたちの未来と地域活性化への思いを苗木に込め、心地よい汗を流しました。



1_岩手南部森林管理署遠野支署や遠野地方森林組合、遠野農林振興センター、宮守地連協、市などの関係機関が連携して植樹を実施 2・3_苗木を植樹する参加者